

にやってくる

9月1日は『防災の日』



防災のための話し合いを

家庭で地域で

近年地球の温暖化による異常気象が世界各地で災害を引き起こしています。

特に昨年（一九八八年）は、日本の記録的な長雨をはじめ、四月のアメリカ中西部の干ばつ、七月の中国南部の熱波、八、九月のバングラデシュの大洪水など世界各地で大災害が発生しました。また、死者二万五千人、被害額一兆七千億円を出したソ連アルメニア共和国大地震は記憶に新しいところです。

「天災は忘れたころにやってくる」といわれますが、とりわけ地震はいつ起こるかわかりません。

日本は世界でも有数の地震多発国です。大正十二年の関東大地震以後の約六十年間をみても、震度六以上の地震は十回も起きています。最近では伊豆半島伊東沖で海底火山が噴火し、群発地震が続いています。

八月三十日から九月五日までの一週間は『防災週間』、そして九月一日は『防災の日』です。全国各地で防災訓練が繰り広げられますが、本年の都留市防災訓練は、自主防災組織を中心として地域ぐるみで参加する防災訓練の実施を

お願いします。

訓練の実施にあたっては、特に老人や子供、病人、体の不自由な方の安全な避難・誘導訓練を最重要目標として『自分達の地域は自分達で守る』という連帯感に基づき、地域の実情に即した計画を立て住民総参加により地震予知から発災後までの実践的な訓練を実施してください。

また、あなたの家庭でも、いつ地震が起きてもあわてないように、ぜひ「家族防災会議」を開いてみてください。

怖いのは地震

の二次災害

■家にいるときグラツときたら？
グラグラツときたら「それ逃げる!!」と本能的に行動しますが、これは避けなければなりません。

屋外へ飛びだしたとたんに、瓦やガラス、壁などの危険物がシャワーのように降り注ぐからです。グラツときたら、できうる限り、ガスコンロやストーブなどの火を消し、すばやくテーブルやベッドの下などに身をかくすことです。その際は、座ぶとんやカバン、本などで頭部を守りましょう。



■あわてず消火活動を

「地震だ！火を消せ!!」と叫ぶことは、自分自身を冷静にするきっかけにもなり、家族や隣近所への呼びかけにもなります。

あの関東大地震では十四万二千八百七人という尊い生命が奪われましたが、火災さえ発生しなかったらあれほどの大惨事にならずにすんだといわれます。

地震が起こったら火を出さない、また火事が出て初期のうちに消し止めるよう心がけましょう。

